

SABO NEWS LETTER

第 82 号【発行日】平成 18 年 1 月 6 日（金）【発行】（社）全国治水砂防協会

目 次

- 1 . 目次・行事予定 1
- 2 . 国土交通省砂防部長よりご挨拶 2
- 3 . 平成 17 年 12 月からの雪崩等災害発生状況 4
- 4 . 平成 17 年における土砂災害の概要 5
- 5 . （社）全国治水砂防協会大久保理事長より会員の皆様へ 6

行 事 予 定

（国土交通省）

- 1/14 由比地すべり対策事業起工式 静岡県由比町
1/25 地方整備局河川部長等会議 国土交通省内
1/26 ~ 27 雪崩防災シンポジウム 長野県白馬村
2 月上旬 全国河川・砂防等主管課長会議 国土交通省内

（全国治水砂防協会）

- 1/19 四国ブロック市町村職員土砂災害対策研修会 高知市
3/16 ~ 17 第 46 回砂防および地すべり防止講習会 砂防会館別館

ご質問、ご意見、ご感想、記事の詳細内容等、お問合せ先

社団法人 全国治水砂防協会

担当：岡本，宮内，阿部，野間，木村

住所：〒 102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-5 砂防会館内

電話：03-3261-8386 FAX：03-3261-5449 E-mail：kyokai@sabo.or.jp

砂防に関する最新情報は砂防協会ホームページをご覧ください

<http://www.sabo.or.jp/>

会員の皆様へ

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

会員各位におかれましては、旧年中、砂防事業の推進に多大なご支援、ご協力をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。

日本海側を中心に記録的な大雪となり、昨年末から各地で雪崩が発生しています。これも異常気象のひとつかと感じるほど、最近では台風、豪雨、地震、火山などによる大規模な災害が繰り返し発生しています。地球温暖化による異常気象の多発が懸念されており、「21世紀は災害の世紀」と言われている所以です。

ここで、雪崩災害への取り組みについて、少し紹介させていただきます。日本は、世界でも有数の雪の多い国で、国土の半分以上の地域が豪雪地帯に指定され、その地域に全人口の2割にあたる約2,100万の人々が生活しています。日本海側を中心に大量の降雪があり、豪雪地帯、特に山間部の住民にとって雪崩は大きな脅威です。昨年度に公表された雪崩危険箇所は20,501箇所になっています。

砂防事業の一環として雪崩対策事業があります。現在は総合流域防災事業の中に含まれていますが、雪崩防止施設の整備等によって、雪崩危険箇所における人家や公共建物等を守ることを目的とした事業で、昭和50年代後半に豪雪による雪崩災害が頻発したことから、昭和60年度に創設されました。

毎年12月1日から7日を「雪崩防災週間」として雪崩災害の防止に努めるとともに、毎年「雪崩防災シンポジウム」を開催しています。今年度は、平成18年1月26日～27日に「次代へつなげる 新しい雪国づくり」をテーマに長野県北安曇郡白馬村で開催されます。多数のご参加を期待しています。

引き続き大雪のおそれがありますので、雪崩災害等にご注意いただきたいと思います。

今年は、昭和41年9月に山梨県の足和田村（現富士河口湖町）の西湖周辺において大規模な土石流が発生し、94名の死者・行方不明者を数えた災害から40年目に当たります。この災害を契機として全国的な土石流危険渓流調査が開始されるなど土石流対策への取り組みが始まりました。その後、昭和57年の長崎災害を契機に警戒避難体制の整備などのソフト対策が加わるとともに、がけ崩れや地すべりへの災害対策を加え、総合的な土砂災害対策へと拡大してきました。平成12年には土砂災害防止法が制定されて、土砂災害に対するソフト対策に特化した法的根拠を持つに至りました。現在では総合的な土砂災害対策は、砂防事業の最重点課題の一つとなっています。

（次頁へ続く）

昨年、福岡県西方沖地震や梅雨前線豪雨、台風14号等による災害で、814件の土砂災害が発生し、30名の尊い人命が奪われ、あるいは行方がわからないままになっています。こうした災害の実態を踏まえた対応を検討するため、河川局に「大規模降雨災害対策検討会」が設置され、12月26日に「洪水氾濫時・土砂災害発生時における被害最小化策のあり方」と題する提言が国土交通大臣に提出されました。この中で土砂災害対策について、ハード対策を災害時要援護者関連施設や避難場所の安全確保対策等緊急的な対策に重点化するとともに、ソフト対策では、客観的な避難勧告発令基準を地域防災計画に記載したり、土砂災害の発生予測情報や前兆現象など多様な情報を住民に対して提供することが必要であるとするなど、具体的な提言内容となっています。今後これらを活かした総合的な土砂災害対策を進めて参ります。

砂防事業を進め、土砂災害を軽減していくためには、地域住民の方々のご理解とご協力が不可欠です。昨年11月22日に、石川県白山市で「防ろう！みんなであつる里を」をテーマに「砂防フォーラムいしかわ2005」が開催され、私も参加させていただきました。このフォーラムは、白山市長が大会の会長をされ、地元の町会連合会、老人クラブ、女性協議会、青年会議所など地元の方々の手づくりで開催されたもので、地域の土砂災害の歴史と現状を踏まえ、地域でどのような取り組みをしていくべきか、各団体の代表から意見発表が行われ、大会スローガンが採択されるなど、主催者と参加者が一体となって砂防の重要性を考える大変有意義な大会でした。こうした取り組みが継続されるとともに、他の地域にも広がっていくことをぜひ期待しています。

市町村合併が全国的に進み、最終段階に来ています。地域にとって大変重要な新しい自治体の組織づくりが進められています。その中で、増大する災害への備えをしっかりと位置づけていっていただきたいと思えます。

今年一年、せめて人命を巻き込むような土砂災害の無い年であってほしいと願いつつ、国民の安全・安心を確保するため、ハード・ソフト両面にわたる砂防事業をしっかりと推進していく所存です。会員の皆様には、今年も引き続き砂防事業に対するご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

砂防部長 亀江幸二

〔参考〕

・雪崩防災シンポジウム「次代へつなげる 新しい雪国づくり」

<http://www.sabopc.or.jp/event/nadare2005/nadare2005.htm>

・大規模降雨災害対策検討会提言

http://www.mlit.go.jp/river/shinngikai/daikibo/daikibo_index.html

平成17年12月からの雪崩等災害発生状況

これは速報であり、数値等は今後変わることもある。

砂防部保全課
1月6日10:00現在

雪崩等災害の発生状況(平成18年1月6日 10時00分現在)

都道府県名	発生災害	発生件数	人的被害			住家被害			災害発生箇所	被害状況等	集落雪崩	発生日時	危険箇所
			死者	行方不明	負傷者	全壊流出	半壊	一部破損					
北海道	雪崩	1							目梨郡羅白町	道道(知床公園羅白線)へ流出		1月3日15時30分頃	
岩手県	雪崩	1							雫石町橋場	国道46号へ流出。車3台は雪崩手前で停止。けが人等なし。		1月4日11時05分頃	
秋田県	雪崩	2							北秋田郡上小阿仁村 南沢	国道285号へ流出。車3台巻き込まれ 4名自力脱出 けが人なし。		1月4日22時45分頃	
									北秋田市阿仁前田	県道(福館阿仁田線)へ流出。車1台巻き込まれ けが人なし。		1月4日21時20分頃	
山形県	地すべり	1							鶴岡市旧温海町 鷹ヶ坂地区	県道にかかる斜面上に滑落崖を発見		12月27日15時頃	地すべり危険箇所
福島県	雪崩	2							南会津郡館岩村大字穴原	国道352号へ流出。車1台巻き込まれ 1名自力脱出 けが人なし。		1月3日19時00分頃	
									南会津郡南郷村大字東	国道289号へ流出。車2台が巻き込まれたが排雪し救助 けが人なし。(近接2箇所で雪崩発生)		1月3日20時00分頃	
新潟県	雪崩	10							中魚沼郡津南町前倉	国道405号へ流出。通行車両1台巻き込まれ		12月24日9:30	
									十日町市伊達内 土市地区	市道へ流出	1	12月24日9:00	雪崩危険箇所()
									十日町市八箇 笏石地区	集落内道路へ流出。近くに住家なし。		12月24日9:30	
									南魚沼郡湯沢町土樽	魚野川を越えて県道約200m埋塞(河道閉塞は無し)		12月28日8:20	
					3				南魚沼郡湯沢町土樽	ル・デンス湯沢スキー場で従業員4名雪崩に巻き込まれる	1	1月3日10:45	雪崩危険箇所()
					9				南魚沼郡湯沢町三国	苗場スキー場リフト降り場付近で雪崩発生従業員3名と客6名がけが		1月3日17:20	
									南魚沼郡湯沢町湯沢	GALA湯沢スキー場で客2名が雪崩に巻き込まれるがけが人なし		1月3日15:40	
									南魚沼郡湯沢町火打 南魚沼郡湯沢町二保	国道17号へ流出(近接3箇所で雪崩発生)		1月3日17:45~1月4日1:30	
									妙高市燕	雪崩により旅館窓ガラス2枚破損	1	1月3日15:00	雪崩危険箇所()
							十日町市 西浅河原地区	雪崩により倉庫が一部損壊	1	1月5日17:00	雪崩危険箇所()		
	地すべり	1					1	東蒲原郡阿賀町 五十島地区	地すべりに伴う倒木による被害		12月22日15時頃	地すべり危険箇所	
長野県	雪崩	1			1			北安曇郡小谷村千国乙	白馬1ルチ国際スキー場クレネテ外の雪崩危険箇所を点検中1名雪崩に巻き込まれ重傷	1	12月31日7:50	雪崩危険箇所()	
岐阜県	雪崩	3						1	郡上市高鷲町大鷹 向鷲見	用水路に雪が溜まって雪崩発生	1	12月5日9:30	
									大野郡白川村牧 高山市荘川町牧戸	国道156号へ流出(近接3箇所で雪崩発生)		12月22日12時頃~14時頃	
								飛騨市河合町福越 柳ヶ瀬	擁壁(急傾斜施設)が雪崩を捕捉	1	12月24日7:30	雪崩危険箇所()	
滋賀県	雪崩	1							伊香郡余呉町椿坂	国道365号へ流出		12月14日20:30	
福井県	雪崩	5							大野市下山	国道158号へ流出。通行車両1台巻き込まれ		12月20日7:20	
									大野市箱ヶ瀬	国道158号へ流出		12月22日12:30	
									大野市長野	国道158号へ流出。橋梁が横に約90cmずれ。		12月24日9:10	
									勝山市北谷町東山	国道157号へ流出		12月23日12:20	
							越前市中居	国道417号へ流出。通行車両1台埋まる		12月29日22:15			
	合計	28			13			3			7		

詳細については確認中であり変わる事もある。
情報は地方整備局等及び道府県からの情報に基づく。
雪崩及び積雪地域における土砂災害について記載

雪崩 26件
(うち、集落雪崩(住家周辺の雪崩)7件)
地すべり 2件

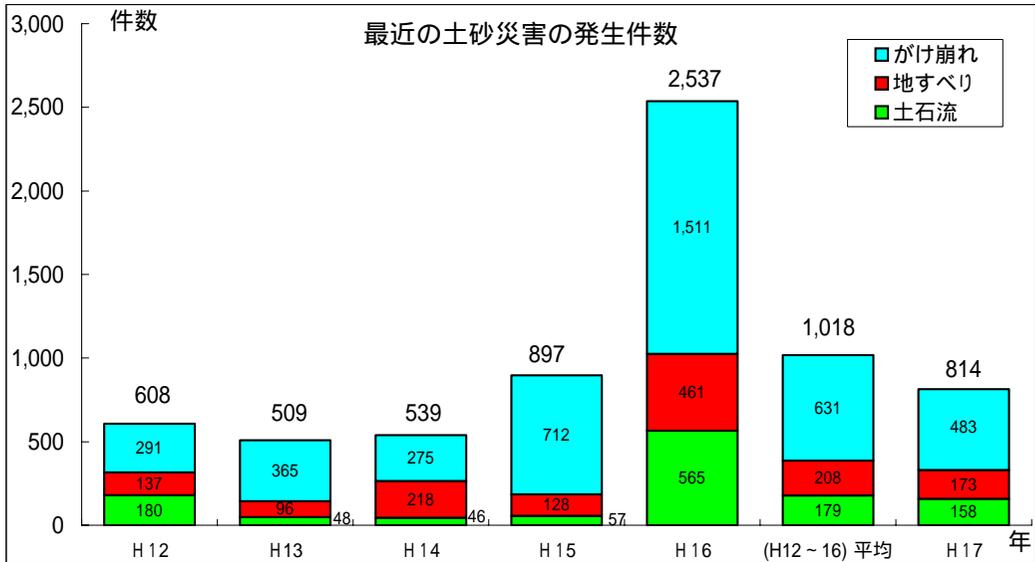
平成17年における土砂災害の概要

平成17年12月31日 現在

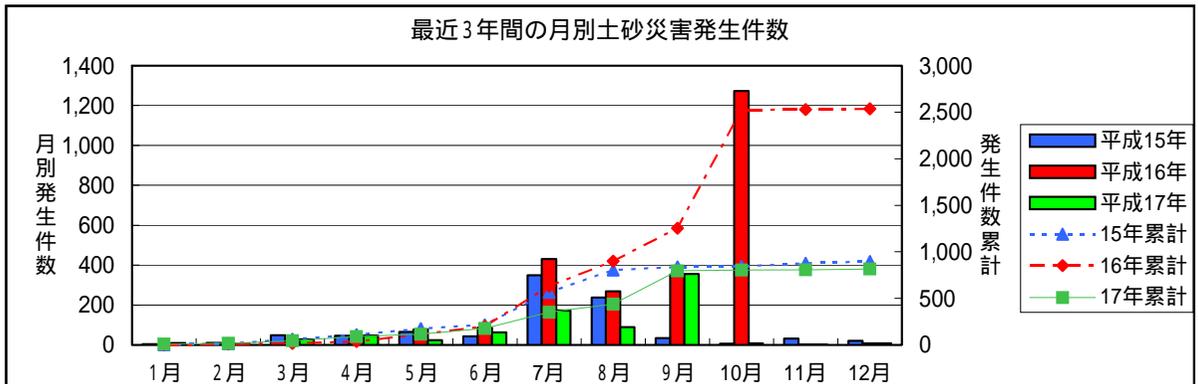
平成17年は 全国 40都道府県で 814件(土石流 158件、地すべり173件、がけ崩れ 483件)の土砂災害が発生している。

被害状況のうち人的被害については死者27名(土石流14名、地すべり5名、がけ崩れ8名)、負傷者11名である。

(参考1) H17土砂災害と過去5ヶ年発生件数との比較



(参考2) 最近3年間の月別土砂災害発生件数



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年計
平成15年	4	10	49	46	65	43	349	237	34	7	32	21	897
平成16年	2	6	10	19	77	87	430	269	353	1,273	3	8	2,537
平成17年	9	7	28	47	24	63	173	89	355	8	3	8	814

Sabo News Letter 新年のご挨拶

(社)全国治水砂防協会
理事長 大久保 駿

新年明けましておめでとうございます。皆様には清新な新年をお迎えのこととご推察申し上げます。

昨年も、砂防事業推進のため、そして砂防協会運営のため種々ご指導いただきましたこと厚く御礼申し上げます。

いよいよ今年は、市町村合併の最終段階です。新しい自治体がどんどん誕生し、新しい自治体運営が精力的に動き出しています。土砂災害対策、防災という面でこれからの姿を考えてみたいと思います。

まず、新自治体の周辺域となることの多い中山間地の土砂災害対策をよく見て欲しいと思っています。地域の安全に偏りのないよう等しく土砂災害対策を進めていただきたいと思います。

地域全体の防災力が低下、停滞しないような取り組みも必要と思います。土砂災害の形態は地域ごとの自然や生活態様などで違ってきます。地域の実態に即応した日頃の防災への努力、特に自主防災組織や自治区などの役割はいざ災害というときに大きな働きをします。このような組織の整備と機能の充実が大事であり、これらをいささかも低下、停滞させてはいけないと思います。地域防災活動の担い手の減少や高齢化などの問題があると思いますが、地域のことを熟知している人たちによる地域ごとの災害防止の取り組みは欠かせません。地域自治区や支所など旧町村単位の防災の組織の活用が大事でしょう。

合併を機に、砂防関係事業の推進方策、地方や住民の参画の仕方、防災活動への多様な取り組み方策などを十分に議論し、地域のために、住民のためにという視点で、その進め方を見直す機会にしなければならないという思いを強くしております。

異常気象が異常でなくなってきました。災害の多様化、激甚化が顕著になってきています。「人間の叡智」によってこのような変化に対応していかなければなりません。命と財産を守る防災の一翼を担う砂防関係事業の果たすべき使命を強く思い、その推進を一層図るために、砂防協会は活動を続けていく所存であります。

会員の皆様には、本年も引き続き砂防関係事業の発展、砂防協会の運営のためご指導賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。